



# 会より さくら だより

\*さくら会のマーク

重なりあう花びらは、人と人が互いに尊重し、理解を深め合う利用者とさくら会とのより良い関係づくりを象徴しています。

第63号 2023年1月発行 社会福祉法人 さくら会

〒140-0013 品川区南大井5-19-1  
☎(03)5753-3900(代)・FAX(03)5753-3955  
ホームページ: <http://www.sakurakai.jp/>



明けましておめでとうございます

社会福祉法人さくら会

理事長 前田 武昭

旧年中は一方ならぬご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

ご存知のとおり、令和2年から新型コロナウイルスが発生しております。昨年7月から8月にかけての第7波では、重症化する人は少なかったとはいえ、都内の1日の新規感染者が4万人を超えました。さくら会の施設でもクラスターが発生し、多数の利用者・職員が感染しました。こうしたクラスターは品川区、品川区保健所、品川区医師会の皆様のご支援・ご指導により、無事収束させることが出来ました。関係の皆様にご感謝申し上げます。

また、11月のさくら会まつりを始め、多くの集いや行事などを中止せざるを得ませんでした。ご利用者の皆様にも多大なご不便をおかけしました。

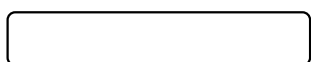
昨年末には、第8波の到来が心配され、新規感染者数も増えてきております。安心はできない状況ではございますが、感染対策をしっかりと行い、直接面会の再開などを始めてきております。今後もご利用者と地域の皆様には、選ばれる質の高いサービスを追求してまいります。

本年もなにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



秋の運動会

2階フロアでレッツ・  
ボーリング



勤続5年表彰式  
～日頃の感謝と更なる成長と活躍を願って～

## 《冬本番、低温やけどに注意》

低温やけどとは、40〜50℃に熱に  
触れ続ける事で起きる火傷の事です。  
50℃だと約3分、60℃だと約1分

で火傷となる可能性があります。自覚症状がないまま  
皮膚の奥をじわじわ痛めていくため油断は禁物です。

### 《予防のポイント》

- ①熱を長時間同じ部位に当てないようにしましょう。
- ②こたつや電気カーペットを使用したまま眠らない。  
タイマーをかける等の工夫をしましょう。
- ③湯タンポや電気アンカは、寝る前に布団を温める  
為に使い、寝る前は布団から出しましょう。
- ④火傷を見つ  
けたら、痛  
みがなくな  
るまで流水  
で冷やし、  
放置せず病  
院で診察を  
受けましょ  
う。

特に身体に麻  
痺がある・糖尿  
病や神経疾患に  
より感覚が鈍く  
なっている・飲  
酒している時や  
眠剤を内服して  
いる等の人は注  
意が必要です。



### 低温やけどを防ぐポイント

**取り出す**  
**湯たんぽ、電気あんか**  
専用カバーや厚手のタオルで包んでも、足が触れると低温やけどをすることがある。就寝前に布団に入れて温めておき、就寝時は布団から出す。

**OFF**  
**電気毛布**  
就寝前にセットして布団を温めておき、就寝時は電源を切るか、1-2時間で切れるようにタイマーをセットしておく。

**NG**  
**使い捨てカイロ**  
貼るタイプのものは、必ず衣類の上に貼り、同じ部位に長時間あてない。貼ったまま眠らない。貼った部分をサポーターやガードルで圧迫しない。靴下用カイロは、靴を履いているときだけ使用する。

**NG**  
**ホットカーペット、こたつ**  
ホットカーペットの上や、こたつに入ったまま眠らない。

## TOKYO働きやすい

### 福祉の職場宣言

さくら会は令和元年に東京都が公表する働きやすい職場づくりに取り組むことを宣言する事業所「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言事業所」として宣言しました。3年経過し、また3年更新しました。



働きやすさの取組には人材育成、仕事の評価と処遇、ライフ・ワーク・バランス等があり、都独自の働きやすい福祉の職場ガイドラインを踏まえています。

体的な取組をご紹介しますと、平成29年度から継続している「みんなdeGOMI拾い」があります。入社1〜3年目の職員が揃いのスタッフジャンパーで地域のゴミ拾いをします。その後は自己紹介やゲームで交流。企画や当日の案内はさくら未来プロジェクトの先輩職員が担当します。地域への貢献や、先輩や同期との絆を育むこと、効率的な会議の進め方等、この企画を通してできることや得ることが沢山あります。

その他、さくら会の取組は東京都福祉保健局福祉人材情報バンク「ふくむすび」に公開されていますので是非ご覧ください。

## ……専門職に聞く……

ケアセンター南大井

言語聴覚士 阿竹 綾香

### Q1 仕事の内容

言語聴覚士は「話す・聞く・食べる」ことを中心に、皆様がより良い生活を過ごせるよう、リハビリを行っています。

### Q2 専門職として心掛けていること

ご利用者のお人柄や、ご自宅や施設での生活環境を考え、一人ひとりに合ったリハビリを提案できるような心がけています。

### Q3 ご利用者、読者に向けてメッセージ

身近な人との何気ない会話や、美味しいものを食べることを、いつまでも楽しみながら続けられるよう、微力ながらサポートさせて頂きたいと思えます。

### 施設生活や在宅生活の中で、何かお困りのことがありましたらどうぞお声かけください。



次回7月号は「介護支援専門員」若穂井秀樹さんの登場です！

さくら会だよりの感想をお聞かせ下さい。

〒140-0013 品川区南大井5-19-1  
社会福祉法人さくら会 編集委員会 宛

次回の発行予定は、令和5年7月です。